

市民と議会との語る会実施報告書

日 時	令和 5 年 5 月 10 日(水) AM 10:00 ~AM 11:30
会 場	越前市議会 第3委員会室
出 席 議 員	大久保委員長、能勢副委員長、前田議員、城戸議員、小形議員、桶谷議員
参 加 者 ( 市 民 )	越前市自治連合会 8名(男性: 8 名、女性: 0 名)
開会挨拶・ 司会・報告・記録	挨拶:大久保委員長、福島越前市自治連合会会長 司会:大久保委員長 記録:能勢副委員長、桶谷議員
【1部】 事業の近況・問題提起	意見 : 地域自治と言うよりも、行政の下請けのようになっている。地域自治の推進の為、行政の自治振興会に対する業務移管の推移を考え、ブレーキ役になってほしい。予算配分について、自治振興会の活動拠点は各公民館になっているが、規模等に地域の格差があるので、建物の老朽化対策も含めて均等になるように、是正をしてほしい。
【2部】 意見交換	Q : 役員のなり手不足が挙げられる。また、福祉の関係で、生活支援交付金など、用途が決まっていて、活用できていない場合などには、実際にボランティアした人には、何らかの市からの補助があってもいいのではないか。 A : 地域での支えあいを実施した場合、国の制度では1/2を超えない範囲で、市県国が、介護保険料を財源として、支払ってもよいとなっている。市の要綱では、まだ、追いついていないため、再度市に要綱改正を訴えていきたい。 Q : 自治振興会の活性化のために、各部長と真剣に話をしてきた。次の部長候補がいても、代わる時期になると辞めてしまい、同じ人が続けなければならない。人材の活性化になっていない。事業をやるのが振興会になっている。地域での福祉関係で社会福祉課、長寿福祉課、社会福祉協議会の担当職員が代わる代わるに来て、地域での組織づくりを求められるが一向に進まない。ボランティアが出来る人材がいない。 A : 福祉関係で各地区に出向くときは、受ける側の立場に立ち、進める時は地域の負担にならないよう、市役所内で十分協議して進めるように言ってきた。再度訴えていきたい。 Q : 人材問題では、特に事務局長が大変でなり手がいない。コロナ禍で、行事に子どもの参加が大変難しかった。学校では、人との距離を離す、集

団化しない方向で考えられていた。又、コロナ禍で事業縮小を余儀なくされたが、事業をしない方が、楽であると思えてくる。高齢化が進み、認知症を病む人が増えてきている。地域で支えるのも限界がある。対策を整えてほしい。

Q : 自治振興会の事務が市と同じことをしなければならない。大変である。各種事業、男女共同参画支援員、福祉推進員などの人選に苦慮している。区では解らないので、区長さんをお願いすることになる。

Q : 地区内に新しく出来た「道の駅」があるが、もっと集客を図るために、レイアウトの工夫が必要ではないか。新駅周辺の市の考え方を整理して、どの方向性にするのか、議会で協議してほしい。

Q : 中山間地域の問題を抱えている地区では、農業、林業に従事してもらう若者がいない。子どもが高校生になると、交通の便のよい、他の地域に若者の世帯だけが家を建てて地区から出ていき、高齢夫婦のみが残り、人口が減少していつている。地域住民の交通の手段を考えてほしい。

A : 人手不足等をお聞きした。現在の自治振興会はトップだけでやっている。3か年計画でも少し変更しただけでやっているのではないか。公民館の老朽化、駐車場が不足している。駐車場の確保をしていきたい。自治連合会、自治振興会からも要望をだしてほしい。

A : 行政とがっぷり四つに組んで、できないことはできない。住民根本にやる。30周年を見据えて、今後10年を考えて、自立した行政にしていきたい。

令和 5 年 5 月 10 日

越前市議会議長 様

総務委員会 委員長 大久保 健一